

大学院の学位授与、教育課程の編成・実施及び入学者受入れの方針について

1 学位授与の方針

(1) 文学研究科

大学院文学研究科は、博士前期課程（以下「前期課程」という。）と博士後期課程（以下「後期課程」という。）からなっている。

研究科における理念・目的については、「安田女子大学大学院学則」第1条の2にも次のように明示されている。「大学院は、建学の精神に則り、高度にして専門的な学術の理論及び応用を教授研究し、深奥を究め、文化の進展と人類の福祉に寄与する人物を養成することを目的とする。」

前期課程においては、大学院設置基準第3条「修士課程は、広い視野に立つて精深な学識を授け、専攻分野における研究能力又はこれに加えて高度の専門性が求められる職業を担うための卓越した能力を培うことを目的とする」に基づき、本学の建学の精神である「柔しく剛く」を基本とする、豊かな人間性に立脚した高度の教育研究の展開を図ることを目的としている。

後期課程においても、大学院設置基準第4条「博士課程は、専攻分野について、研究者として自立して研究活動を行い、又はその他の高度に専門的な業務に従事するために必要な高度の研究能力及びその基礎となる豊かな学識を養うことを目的とする」に基づき、本学の建学の精神を基本にしつつ、研究あるいはこれに準ずる高度な専門業務に従事するために必要な研究能力と豊かな学識を養うことを目的としている。

これらの目的に沿って以下の資質の開発を図り、これに基づいて学位を授与する。

イ 日本語学日本文学専攻

前期課程については、次の諸点に留意して人材の育成を図る。

- ① 日本語学日本文学に関して、教育研究を専門深化させるとともに領域総合化させて、より高度な専門業務に従事するために必要な研究能力と豊かな学識を養う。
- ② 社会人、職業人、現職教員等に再教育を行い、日本語学日本文学に関するより高度の職業的能力を身につけさせる。
- ③ 日本語学日本文学を学修することで我が国固有の文化への共感を深めさせるとともに、異文化への理解を通じて異文化と共生する心を育み、教育研究の国際交流を推進する能力を養う。
- ④ 国際化と男女共同参画時代の社会的要請に応えうる、豊かな教養と柔軟で主体的な思考力を身につけさせる。

後期課程については、日本語学（国語教育学を含む。）・日本文学（漢文学・日本文化論を含む。）に関する専攻分野について、研究者として自立した研究活動を行うために必要な高度の研究能力の涵養を図るとともに、高度な専門業務に従事するために必要な学識と研究能力を養う。

ロ 英語学英米文学専攻

前期課程については、次の諸点に留意して人材の育成を図る。

- ① 英語の構造と特質について研究を進め、専門的知識の深化を図る。
- ② 英語を媒体とする文学作品の読解を通して、その言語を基盤とする社会・文化に関する研究を進め、専門的知識の深化を図る。
- ③ 英語という世界的共通語を通して、英語圏文化と日本文化との比較研究を進め、異文化・多文化理解に関わる研究等、関係領域の専門的知識の深化を図る。
- ④ 英語学・英米文学・異文化理解など諸学の研究を進めることを通して、言語と文化に対する深い洞察を有する専門的職業人に必要な資質を涵養し、とりわけ、中等教育における外国語（英語）科の教員としての英語教育に基づく専門的知識と技量の深化を図る。
- ⑤ 英語という世界的共通語について、高度な専門的職業人に相応しい運用能力の錬磨に努める。

後期課程については、各学生の専攻分野（英語学・英語教育学、英米文学）について、広く関連する研究

を踏まえて、研究の意義・妥当性を自ら検証する能力を示し、これに基づいて研究計画を自ら立案し、実証的研究であると理論的研究であると問わずこれを遂行し、研究結果を口頭及び論文で関係する学会に発表する力があることを示すことを求める。研究成果は、研究の意義、独創性、研究手法の確実性、関連する学問分野における貢献度から測り、該当する研究が学位授与に相当する研究であるかどうかを決定する。

ハ 教育学専攻

前期課程については、各コースにおいて、次の諸点に留意して人材の育成を図る。

1) 教育学・心理学コース

- ① 教育学や心理学に関し、学修の専門深化と総合化を図り、研究を推進するための能力の基礎を養う。
- ② 教育学や心理学に関する高度な知識や技能を修得し、現職教員の資質の向上や教員を目指す者の豊かな学識を養う。
- ③ 教育の充実と子どもの発達の保証という今日の時代的要請に応えうる、より高度の職業的能力を身につけさせる。

2) 臨床心理学コース

- ① 臨床心理学に関し、学修の専門的な知識や総合化を図り、研究や実践を推進するための能力の基礎を養う。
- ② 臨床心理学に関する高度な知識や技能を修得し、臨床心理士を目指すものの豊かな学識を養う。
- ③ 臨床心理士としての今日の時代的要請に応えうる、より高度の職業的能力を身につけさせる。

後期課程については、学生が専攻するそれぞれの分野（教育学、心理学、臨床心理学）について、広く関連する研究を涉猟し、その中から研究テーマを設定し、研究計画を立案して主体的に研究を遂行し、研究成果を論文及び口頭で関係する学会に発表する力があることを示すことを求める。研究成果は、研究の意義、独創性、研究手法の確実性、関連する学問分野における貢献度から測り、該当する研究が博士の学位に相当する研究であるかどうかを決定する。

(2) 家政学研究科

大学院家政学研究科は、修士課程のみからなる研究科である。

研究科における理念・目的については、「安田女子大学大学院学則」第1条の2に次のように明示されている。「大学院は、建学の精神に則り、高度にして専門的な学術の理論及び応用を教授研究し、深奥を究め、文化の進展と人類の福祉に寄与する人物を養成することを目的とする。」

修士課程においては、大学院設置基準第3条「修士課程は、広い視野に立って精深な学識を授け、専攻分野における研究能力又はこれに加えて高度の専門性が求められる職業を担うための卓越した能力を培うことを目的とする」に基づき、本学の建学の精神である「柔しく剛く」を基本とする、豊かな人間性に立脚した高度の教育研究の展開を図ることを目的としている。

この目的に沿って以下の資質の開発を図り、これに基づいて学位を授与する。

- ① 家政学に関して、教育研究を専門深化させるとともに、家政学の究極的な目的である健康生活をホリスティックに探求し、より高度な専門業務に従事するために必要な研究能力と豊かな学識を養う。
- ② 社会人、職業人、現職教員等に再教育を行い、健康生活に関するより高度の職業的能力を身につけさせる。
- ③ 健康生活への認識を深めさせるとともに、生活におけるグローバルな視点及び環境と共生する心を育み、教育研究の国際交流を推進する能力を養う。
- ④ 男女共同参画時代の社会的要請に応えうる、豊かな教養と柔軟で主体的な思考力を身につけさせる。

(3) 薬学研究科

大学院薬学研究科は、博士課程のみからなる研究科である。

研究科における理念・目的については、「安田女子大学大学院学則」第1条の2において、「大学院は、建学の精神に則り、高度にして専門的な学術の理論及び応用を教授研究し、深奥を究め、文化の進展と人類の福祉に寄与する人物を養成することを目的とする。」と明示されている。

近年、医学・薬学などの生命科学の急激な発展とそれに伴う医療の高度化により、医師、薬剤師など医療従事者をとりまく環境は著しく多様化・高度化の方向に向かっている。薬学分野におけるこれら先端医学や高度医療には、より高度な学問知識・技能と豊富な臨床経験を兼備する人材が求められ、薬学専攻博士課程においては、この求めに応じて、本学の建学の精神を基本に、「安田女子大学大学院学則」第1条及び、「大学院設置基準」第4条「博士課程は、専攻分野について、研究者として自立して研究活動を行い、又はその他の高度に専門的な業務に従事するために必要な高度の研究能力及びその基礎となる豊かな学識を養うことを目的とする」に則って、医療において高度な専門業務の従事に必要な研究能力と豊かな学識を養うことを目的としている。

この目的に沿って以下の諸点に留意して人材の養成を図る。

- ① 薬剤師として、薬物治療における高度医療の発展に貢献できる豊かな学識を身につけさせる。
- ② 医療において、高度な専門知識・技能と優れた研究能力を身につけさせる。

これら①又は②の条件を満たし、行った研究が学位授与にふさわしい内容であることを認められた者に学位を授与する。

2 教育課程の編成・実施の方針

(1) 文学研究科

本研究科の目的・目標を達成するために、教育課程は、研究科の理念・目的並びに学校教育法第99条、大学院設置基準第3条第1項及び同第4条第1項に則って編成されている。

すなわち、学生が、学士課程における学修を基礎にして視野の拡大を図りつつ、自らの研究課題の追究を通して専門研究を深化させ、自立的な研究態度と研究能力を身につけ、高度に専門的な職業に必要とされる能力を養うことができるように、適切な教育課程を整え、学生一人ひとりの実態に即した履修指導、学修指導を行うことが本研究科の教育課程の編成・実施の方針である。

「高度の専門性を要する職業等に必要の高度の能力を養う」ために、その目的を専攻ごとに特化するとともに、「共通科目」又は「関連科目」を設けて領域総合化を図ることで、教育課程における体系的な確保を図っている。

前期課程においては、学士課程の教育課程を踏まえ、課程間における接続に配慮して編成されている。各専攻・コースとも学士課程における教育課程を踏まえて、複数の研究分野から構成されており、各研究分野においては、授業科目として「特論」と「演習」、及び「特別研究」が設定されている。

後期課程の教育課程は、前期課程の教育課程を延長するかたちで構成されており、専攻によっては研究分野を集約したかたちになっているところがあるが、その体系的な確保している。

上記のような方針に基づき教育課程を編成・実施し、人材の養成を行う。

イ 日本語学日本文学専攻

前期課程では、学士課程の教育課程を基礎として、「日本語学」「日本文学(漢文学、日本文化論を含む。)」 「国語教育学」の3分野及び「共通科目」で構成されている。「国語教育学」の研究分野においては、中学校・高等学校の教員を目指す者や現職教員の希望を満たすことができ、また「日本文学」分野においては「漢文学」や「日本文化論」が含まれ、研究の視野を広げることができるようになっている。

「専門深化と総合化」は本専攻の理念であり、学生はこれらのうちから各自の希望に応じて1分野を選択して研究を深めるとともに、他の2分野からそれぞれ4単位以上を履修して視野を広げること(総合化)が求められている。学生には、専攻する分野について、研究指導教員の担当する「特論」及び「演習」を履修させるほか、「特別研究」を履修させ、自己の研究課題を研究指導教員の指導のもとに追究し、その成果を修士論文にまとめさせることで「専門深化」を図っている。

後期課程では、前期課程を基礎としつつも、研究分野は、「日本語学・国語教育学」「日本文学」の2分野に統合され、これを基幹研究分野とし、学生の必要に応じて兼任教員による特殊講義を開講することができるよう配慮している。学生は各自の専攻に応じて1分野を選択し、研究指導教員の「特殊講義」4単位及び「特殊研究」6単位を修得して各自の研究を深めるとともに、研究の視野を広げることが可能となるよう教育課程を設定している。

ロ 英語学英米文学専攻

前期課程では、英語学領域においては、現代の言語学の動向を踏まえた学習(linguistic studies)と伝統的なテキスト研究を基本とする学習(philological studies)に偏りが生じない編成をしている。英米文学領域においては、イギリス文学、アイルランド文学、アメリカの近代・現代文学を中心に研究が進められるように科目を配置し、加えて、欧米文化及び異文化理解に関わる科目を配して幅の広い学修に備えている。英語教育学領域においては、外国語(英語)教育の歴史、目的、学習、学習者、教材、方法、評価等に亘って包括的に学修が進められるよう科目を配し、かつ英語教育実践力の涵養を目指して「英語教育実践研究」も設けている。更に本専攻の特色として、より高度な英語の運用力を養成するために「共通科目」として技能養成科目群を設定している。

後期課程では、「英語学」と「英語教育学」を統合して一つの研究分野とし、「英米文学」をもう一つの研究分野として教育課程を編成している。各研究分野とも研究指導教員の担当する特殊講義4単位及び特殊研究6単位を修得させている。また、研究指導教員の担当する研究分野のほか、各自の研究分野にのみ偏する履修にならないよう、他の教員の担当する研究分野も履修できるように教育課程を設定してある。

ハ 教育学専攻

前期課程では、各コースにおいて、次のような教育課程を編成・実施し、人材の養成を図る。

1) 教育学・心理学コース

学士課程の教育課程を基礎として、「教育学」「心理学」の2分野及び「関連科目」から構成されている。「教育学」「心理学」の研究分野とも、幼稚園教員、初等中等学校教員を目指す者や現職教員の希望を満たすことができ、加えて、幅広い「関連科目」を用意することで、研究の視野を広げ、高度の専門的資質や能力を身につけた職業人の育成を目指すことができるようになっている。

「専門深化と総合化」は本研究科全体の理念であり、学生はこれらのうちから各自の希望に応じて1分野を選択して研究を深めるとともに、他の分野から、それぞれ4単位以上を履修して視野を広げること(総合化)が求められている。学生には、専攻する分野について、研究指導教員の担当する「特論」と「演習」を履修させるほか、「特別研究」を履修させ、各自の研究課題を研究指導教員の指導のもとに追究し、その成果を修士論文にまとめさせることで、「専門深化」を図っている。

2) 臨床心理学コース

学士課程の教育課程を基礎として、「臨床心理学」及び「関連科目」から構成されている。専門科目である

「臨床心理学」に加えて、幅広い「関連科目」を用意することで、研究の視野を広げ、高度の専門的資質や能力を身につけた職業人の育成を目指すことができるようになっている。

「専門深化と総合化」は本研究科全体の理念であり、学生は臨床心理学関連の指定された必修科目及び選択必修科目群から合計26単位以上を修得し、視野を広げること(総合化)が求められている。学生には、研究指導教員の担当する「特論」と「演習」を履修させるほか、「特別研究」を履修させ、各自の研究課題を研究指導教員の指導のもとに追究し、その成果を修士論文にまとめさせることで、「専門深化」を図っている。

後期課程では、前期課程を基礎としつつも、研究分野は、「教育学」「心理学」「臨床心理学」の3分野に統合され、これを基幹研究分野とし、学生の必要に応じて兼任教員による特殊講義を開講することができるよう配慮している。学生は各自の専攻に応じて1分野を選択して、研究指導教員の「特殊講義」4単位及び「特殊研究」6単位を修得して各自の研究を深めるとともに、研究の視野を広げることが可能となるように教育課程を設定している。

(2) 家政学研究科

本研究科の目的・目標を達成するために、教育課程は、研究科の理念・目的並びに学校教育法第99条、大学院設置基準第3条第1項及び同第4条第1項に則って編成されている。

すなわち、学生が、学士課程における学修を基礎にして視野の拡大を図りつつ、自らの研究課題の追究を通して専門研究を深化させ、自立的な研究態度と研究能力を身につけ、高度に専門的な職業に必要とされる能力を養うことができるように、適切な教育課程を整え、学生一人ひとりの実態に即した履修指導、学修指導を行

うことが本研究科の教育課程の編成・実施の方針である。

「高度の専門性を要する職業等に必要の高度の能力を養う」ために、その目的を専攻に特化するとともに、「共通科目」又は「関連科目」を設けて領域総合化を図ることで、教育課程における体系的確保を図っている。

イ 健康生活学専攻

授業科目は、専門教育科目のみで構成し、科目群は、基本科目、展開科目、実践科目、特別研究に区分している。健康生活を達成すべく高度な専門知識と、生活の場において実践する能力を持つ人材を養成するために、必修科目は、基本科目6単位（健康生活学特論2単位、疾患リスク管理学特論2単位、統計的調査方法論2単位）、実践科目4単位（内部環境プロデュース実践演習2単位、生活環境プロデュース実践演習2単位）及び特別研究8単位、計18単位としている。修了必修単位は、選択科目12単位を合わせて、30単位以上履修するものとしている。

(3) 薬学研究科

本研究科では、「分子生命制御学分野」及び「病態解析治療学分野」の2分野で構成されている。修得する科目は、両分野とも、必修講義科目（特論）、必修演習科目（演習）、選択講義科目（特論）、選択演習科目（演習）及び「特別研究（必修科目）」である。

学生には、必修講義科目（特論）を両分野から各1科目、合計2科目（4単位）、必修演習科目（演習）を両分野から各1科目、合計2科目（4単位）、選択講義科目（特論）及び選択演習科目（演習）から5単位以上（10単位以上）の履修を通して、各自の知識・技能の向上と専門領域の視野を広げることができるよう教育科目を設定している。加えて、必修科目の特別研究14単位を履修させ、自己の研究課題を研究指導教員の指導のもとに追究して結果を査読付きの学術雑誌に発表させるとともに、その成果をまとめて博士論文を作成させることにより「専門深化」を図っている。

3 入学者受入れの方針

(1) 文学研究科

本研究科では、各専攻における学修の基礎学力を備え、研究課題を持ち、研究意欲に満ちた学生（男女は問わない。）を、学内はもとより学外からも広く受け入れるために、以下のことを入学者受入れの目標としている。

- ① 受入れの対象を、本学の学生・卒業生のみならず、他大学の学生・卒業生・修了生、現職の教員等の社会人、生涯学習の一環として研究意欲の高い社会人、外国人留学生等、幅広く設定し、また男女を問わず受け入れることによって、時代と社会の要請に応えること。
 - ② 受入れに当たっては、各専攻における学修の基礎学力を身につけていること、研究したい課題を持っていること、研究意欲が旺盛であること等を、書面審査、筆記試験（専門と外国語）、口述試験等によって確かめ、一定水準以上のものを入学させ、研究科の水準を維持するよう留意すること。
 - ③ 外国人留学生については、入学希望者があった場合、入学試験出願書類提出前に、本研究科について十分説明し、理解を得るように努めるとともに、外国語の試験としては日本語の試験を課し、入学後の学修に支障がないかを確かめること。
 - ④ 定員確保に努める一方、大幅な定員超過にならないよう定員管理に努めること。
- これらの方針に基づき、以下のような入学者を受け入れる。

イ 日本語学日本文学専攻

前期課程においては、より高度な専門業務に従事するために必要な研究能力と豊かな学識を養うとともに、我が国固有の文化への共感を深め、国際化と男女共同参画時代の社会的要請に応えうる、豊かな教養と柔軟で主体的な思考力を身につけた人材を養成することを目的とし、次のような人を求めている。

- ① 日本語学・日本文学（漢文学、日本文化論を含む）に対する強い探求心と学修意欲に満ちた人
- ② 大学院における学修に堪えられる能力と資質を有する人
- ③ 中学校・高等学校の国語科教員を目指し、国語教育に興味・関心を持つ人

後期課程においては、前期課程との対応を図るとともに、高度に専門的な業務に従事するために必要な学識と研究能力を養うために、次のような人材を求めている。

- ① 前期課程における学修の成果を確実に身につけた人
- ② より高度な専門的職業に就くための基礎的能力とともに、専門業務に従事することへの強い意志を有する人

ロ 英語学英米文学専攻

前期課程においては、広い視野に立って精深な学識を受け、専攻分野における研究能力、又はこれに加えて高度の専門性が求められる職業を担うための卓越した能力を培うことを目的として、次のような人を求めている。

- ① 高度な英語運用能力を身につける強い意志を持ち、不断の努力をする人
- ② 研究活動を通して獲得する専門領域の知見を、自らのキャリアに活かす強い意志を持っている人
- ③ 専攻分野に対する自らの研究課題を明確にして、主体的に学修ができる人
- ④ 中等学校の教員をはじめ、外国語（英語）を教えることに興味・関心を持っている人

後期課程においては、前期課程までの履修において、次の各項目における能力を十分に有していると判断される者を後期課程に受け入れる。

- ① 研究動機が明確であり、当該研究の意義が十分に認められる人
- ② 研究計画が具体的であり、基本的な研究方法を修得している人
- ③ 自らの研究成果を発表した実績があり、将来研究者としてのキャリアを立てる意志が強い人
- ④ 研究者として、人間的に十分成熟する見込みがある人

ハ 教育学専攻

前期課程においては、本研究科の入学受入れの方針に従って、各コースの求めているのは次のような人である。

1) 教育学・心理学コース

本コースは、大学院設置基準第14条による現職教員の資質向上や教育職員専修免許状の取得による高度専門職業人を養成することが大きな目的であり、次のような人を求めている。

- ① 現職教員で、教職の資質の向上を目指している人
- ② 学生で、教職や教育関係に関心のある人
- ③ 人間の発達や心理に関する高度な知識や技能を身につけたいと考えている人

2) 臨床心理学コース

本コースは、臨床心理学の専門的知識と技能を有する高度専門職業人を養成することが大きな目的であり、次のような人を求めている。

- ① 臨床心理士の資格を取得して、社会に貢献したいと強く思っている人
- ② 高度の臨床心理学的知識や技能を身につけたいと思っている人

後期課程においては、本研究科の入学受入れの方針に従って、専門分野における研究の高度化と高度の研究能力の涵養を図り、研究者及び高等教育の人材を育成するために、次のような人を求めている。

- ① 高度に専門的な業務に従事したいと考えている人
- ② 専門分野の研究を高等教育機関等で引き続き進めたいと強く願っている人

(2) 家政学研究科

本研究科では、各専攻における学修の基礎学力を備え、研究課題を持ち、研究意欲に満ちた学生（男女は問わない。）を、学内はもとより学外からも広く受け入れるために、以下のことを入学受入れの目標としている。

- ① 受入れの対象を、本学の学生・卒業生のみならず、他大学の学生・卒業生・修了生、現職の教員等の社会人、生涯学習の一環として研究意欲の高い社会人等、幅広く設定し、また男女を問わず受け入れることによって、時代と社会の要請に応えること。

- ② 受入れに当たっては、専攻における学修の基礎学力を身につけていること、研究したい課題を持っていること、研究意欲が旺盛であること等を、書面審査、筆記試験（専門と外国語）、口述試験等によって確かめ、一定水準以上のものを入学させ、研究科の水準を維持するよう留意すること。
 - ③ 定員確保に努める一方、大幅な定員超過にならないよう定員管理に努めること。
- これらの方針に基づき、以下のような入学者を受け入れる。

イ 健康生活学専攻

本専攻では、向学心があり、人間の健康に強い問題意識を持っている人を求める。また、健康を取り巻く種々な環境に対して、研究に必要な能力を備え、研究を推し進める問題解決能力を備えた人を求める。さらに、大学院で学んだことを将来どのように生かすかという、明確なビジョンを持つ人を求める。

(3) 薬学研究科

本研究科では、薬学を専攻するのに相応しい基礎学力を備え、研究したい課題を持ち、勉学意欲に満ちた学生（男女は問わない）を受入れる目的で、次のような人を広く学内外から求めている。

- ① 医療機関において、薬剤管理業務、医薬品情報管理業務、治験研究業務などに携われる、すなわち薬剤師業務に精通する薬剤師を目指している人
- ② 薬物の血中濃度測定、解析などの薬物治療モニタリング、薬物の作用・副作用のメカニズム解明を臨床応用できる、すなわち優れた研究能力を有する医療従事者を目指している人